



KEIYO TEAM6 クロストーク Vol.20

清水葵（ジェフユナイテッド市原・千葉レディース／サッカー）
 &
 倉持杏子（バルドラール浦安ラス・ボニータス／フットサル）



清水葵

（ジェフユナイテッド市原・千葉レディース／サッカー） & （バルドラール浦安ラス・ボニータス／フットサル）

倉持杏子



6チームの注目選手や共通点を持つ選手・スタッフが、競技の枠を越えて様々なテーマでトークを行う、『京葉線プラス』限定のスペシャル企画「KEIYO TEAM6 クロストーク」。第20回は、ジェフユナイテッド市原・千葉レディースの清水葵選手とバルドラール浦安ラス・ボニータスの倉持杏子選手の対談です。フットサルは6月に開幕したばかり、そしてサッカーはいよいよプロリーグであるWEリーグが9月に開幕します。

東京国際大学ではチームメート お互いの素顔とは？



6月に開幕したリーグ初戦でも大活躍の倉持選手
 ©Bardral Urayasu

日本女子フットサルリーグ2021-2022が開幕しました。昨シーズンは優勝という最高の成績をおさめ、この開幕戦でも貫禄の試合運びで圧勝したバルドラール浦安ラス・ボニータスで2シーズン目を迎えるのが倉持選手。一方、ジェフユナイテッド市原・千葉レディースの清水選手は、オルカ鴨川FCから今シーズン移籍してきました。ついに開幕するWEリーグ（日本初の女子プロサッカーリーグ）を9月に控えます。実はこのお二人、東京国際大学では一学年違いのチームメートでした。

——お二人は大学の先輩・後輩とお聞きしましたが、普段から交流がありますか？

倉持杏子選手（以下、倉持）：いえ、大学出てから、相手チームとして戦うことはあっても、連絡を取り合うことはありませんでした。でも大学当時は仲が良かったです。だよね？（笑）

清水栞選手（以下、清水）：はい、仲良くしてもらっていました（笑）。自分は“きょうちゃん”って呼んでいました。

倉持：私は“清水”って呼んでいましたね。大学では学年に関係なく、みんな仲が良かったです。特に清水選手は、大学に入ってすぐ活躍していましたから。

清水：入部してすぐに先輩からコミュニケーションをとってくれるようなチームでした。1学年上の先輩は人数が少なかったこともあって、一緒に行動することも多く、仲良くなれたと思います。定期的に食事に行っていました。大学2年生のときに腰の手術をして、退院したときに倉持さんたちがケーキを用意してお祝いしてくれたのが、すごく嬉しかったです。

倉持：部活動が週6回あって、遠征も含めると一緒に時間を過ごすことが多く、清水選手たちと団結して動いていました。

清水：「もういいかな」っていうくらいのレベルまでいってましたね（笑）。

倉持：ええ、なんでいいかなって言うの（笑）？

——千葉での暮らしはいかがですか？

清水：千葉市内はまだあまり詳しくないのですが、ジェフのチームメートに、木更津にある「せんねんの木」へ連れていってもらいました。バームクーヘンのお店で、すごく美味しかったです。

倉持：私たちはチームをサポートしてくださっているスポンサーさんのお店が浦安にあるので、そこでチームメートとご飯を食べます。

——電車で移動することもありますか？

清水：鴨川は車社会なので、電車に乗る習慣がありませんでした。でもこれから京葉線を取り回します！

倉持：私は去年京葉線通っていて、とても好きな電車です。練習場の最寄り駅が舞浜駅で利用者が多いのですが、練習から帰る23時くらいに駅を清掃している方々が本当に優しくて、駅をキレイにしてくださって、お話をしたこともあります。

——**どちらのチームも、ファンとの交流が盛んなイメージがあります。**

清水：はい、私たちは4月からTikTokを始めました。コロナでサポーターさんと直接関われないことから、広報の方たちと話し合う機会を重ね、若者の間で人気のあるTikTokを始めようということになりました。選手みんなで動画を撮っています。普段は見られないダンスとか一発芸とか、サッカー以外のものを載せていきます。

倉持：ダンスが得意だね。とってもキレイがいい！ 大学時代からよく踊って、みんなをよく笑わせてくれる存在だったから、TikTokもチェックするね。

清水：私はダンスが得意とは思っていなかったのですが…、倉持さんは逆に一発芸がすごくて、率先してやってくれてましたね。

倉持：よくないぞー（笑）。でも実はやっていたので、私もどこか披露できればと。この1年間は隠してきたので、これから準備を始めます。リアル場でファンサービスができなくなってしまったので、ギフティング・コミュニティ「エンゲート」で、普段は見られない姿をお見せするとか、SNSでチームや選手に興味を持ってもらえるように企画しています。

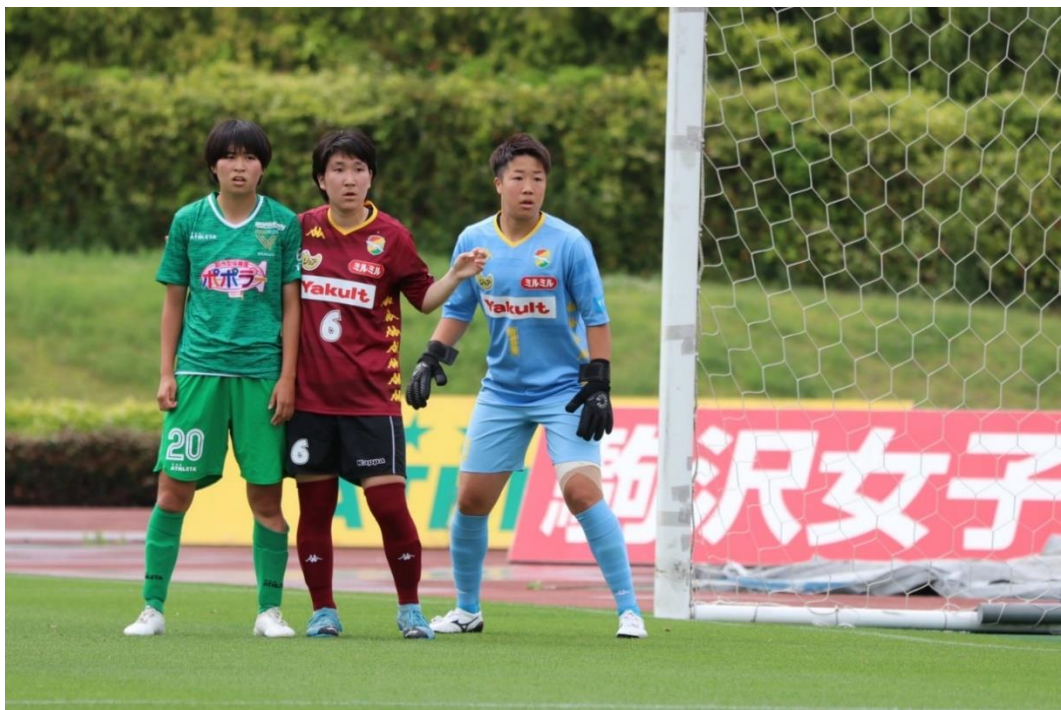
——**清水選手の特技は洗車の拭き上げなのですか？**

清水：特技というか、洗車がすごく好きです。チームメートの林香奈絵キャプテンの車を洗車してあげたときも、1時間以上かけて、専用のグッズを使って手で拭き上げました。2年前に鴨川に行ったときに車を買って、海が近いせいで汚れが目立つので月に一度は洗車していて、そこからはまりました。乗ってきていただければ洗車しますよ（笑）。

倉持：そうなの？ そうだったの？ 私もいつかお願いしよっと。清水さんは大学からムードメーカーだったよね。

清水：そうですね。どのチームにいてもいじられますね。楽しいことが好きなので。

怪我を乗り越えた先に
憧れの選手が存在が成長の糧



清水選手の掲げたマニフェストは「私、失点しませんから」！
@JEFUNITED

清水選手はゴールキーパーひと筋。倉持選手はサッカーではミッドフィルダー、フットサルではフィールドプレイヤー。まだ女子サッカーの大会が少なかった時代を過ごしてきたお二人。大きな怪我を乗り越えて、サッカーへの愛が深まったと言います。

——サッカーを始めたのは何歳のときですか？

清水：5歳ですね。遊び感覚で始めました。近くの少年団に入って、小学校6年までそこで練習していました。私は一人っ子で両親が共働きだったので幼馴染という時間が長くて、その幼馴染のお兄ちゃんがサッカーを始めるタイミングで一緒にやってみようかなと思いました。

倉持：私は小2の夏です。同じ小学校の女の子の友達がもともと入っていて、当時活発だった私を誘ってくれました。そこからのめり込みました。中学ではサッカーチームに所属しながら、フットサルも習っていました。ずっとサッカーをメインにやってきたのですが、昨シーズンからはフットサル選手としてプレーしています。

——倉持選手がフットサルチームに転向したのはなぜですか？

倉持：清水さんはわかると思うけど、私は狭い場所で駆け引きしたりプレーしたりするプレースタイルです。スフィード世田谷FCという前所属チームの2年目で左膝の前十字靭帯を切ってしまい、長期離脱でショックを受けたときに、フィールドをかえてまた目標を持って頑張ってみようとフットサルのチームに入ることを決めました。11月に手術をして完全復帰できたのが7月くらいだったので、長かったですねえ。家族や、チームメイト、スタッフに支えてもらいました。逆に怪我をしたおかげで、サッカーができることや自分のいる環境、周囲の人に対して、今までの人生の中でもっとも強く感謝する気持ちを持つことができました。リハビリ期間中に一回もやめたいと思わなくて、不思議と早くプレーしたいという気持ちがどんどん強く

なりました。

清水：私は大学2年生のときに腰の手術をして、復帰するのに半年くらいかかりました。でもそのとき、倉持さんと同じでまったくイヤにはなりませんでした。大学生は冬にインカレという大きい大会があるので、絶対にそこでメンバーに入るというモチベーションを持つことができました。サッカーができなくて落ち込むこともありましたが、先輩や同期と毎日会って支えてもらっていました。

——サッカーを始めた頃、まだ女子のチームは少なかったのではないですか？

清水：そうですね。小学校6年間は男子のチームにいて、中学で浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユースに入りました。

倉持：私は男子が母体のチームだったけど、少ない人数で女子のチームもありました。ただ練習は男子と一緒にでした。

清水：いまは女子サッカーも取り上げられることが多くなったなと思います。私たちが中学生の頃は、大会と言えば全国大会だけで、決まったチームとしかできませんでした。いまは男子チームにも女子がいるし、女子チームもすごく増えてきたと感じています。なでしこジャパンがワールドカップで優勝した頃から、女子サッカーの人口が増えてきたように思います。

——清水選手は近賀選手に憧れているそうですが、ワールドカップの影響もありましたか？

清水：私が中学生くらいの頃から、近賀選手が容姿も含めてカッコよくて、携帯の待ち受け画面にしていたことがありました。去年・一昨年とオルカ鴨川FCと一緒にプレーさせていただいて、そこでもっと好きになりました。「ああこういう人が世界一になれるんだなあ」って、同じチームでやってみて思いました。プレーはもちろん、人間性が素晴らしくて。プライベートでもサッカーでも、優しい厳しさがあって、ついていきたい！と思わせてくれる人でした。

倉持：私は中学のときにたまたま伊藤香菜子選手（現・ちふれASエルフェン埼玉マリU-15リードコーチ）と練習できる機会があって、そのときに初めてなでしこリーグレベルの人のプレーを肌で感じさせてもらい、技術も人間性も衝撃を受けました。スフィード世田谷FCに入った最初の対決が、当時伊藤選手の所属していたちふれASエルフェン埼玉との対決で、伊藤選手と同じピッチに立てたときにはめちゃくちゃ感動しました。

**ついにWEリーグ開幕でプロ選手誕生！
日本を制し、世界に通用する選手へ！**



WEリーグ開幕で、いよいよ女子プロ選手が誕生する。
@JEFUNITED

2021年9月12日。日本初の女子プロサッカーリーグであるWEリーグが開幕します。男子プロサッカーリーグであるJリーグが設立された1991年から、実に30年。ようやく女子サッカー界も新たな歴史の1ページを開くことになりました。これから始まるシーズンへの想いや、それぞれのチームの魅力を語っていただきました。

——WEリーグが立ち上がったことに対しての想いをお聞かせください。

清水：女子のプロリーグができて、その1年目から関われることは幸せなことだと思います。男子はプロ、女子はアマチュアという今までの概念とは違って、男子とも差がなくなり、プロサッカー選手と見られるようになります。女の子がサッカーを始めてくれたり、注目してくれたりすると思います。選手からすると「やっと女子も」という感覚ですが、スタートできるのはいいことだと思います。WEリーグに所属するチーム主体に、女子サッカーをもっといろいろな人に認知していただけたらと思います。

倉持：小学生や中学生でサッカーをしている女の子の将来の夢として、可能性が広がるのが嬉しいです。それにWEリーグを目指す人が増えれば増えるほど、国としての女子サッカーの強化にもつながっていくと思うので、とても楽しみです。

——開幕に先立って開催されたプレシーズンマッチはどのような位置づけでしたか？

清水：順位は関係ないのですが、WEリーグに所属するチームと対戦できるいい機会でした。いろいろな選手を試し、リーグ戦ではチャレンジできないことに積極的にチャレンジできるからです。勝利にこだわりつつ、ジェフレディースらしさを見つけることに注力しました。

——ラス・ボニータスは3月に優勝しました。どのようなお気持ちでしたか？

倉持：最終試合で勝って優勝圏内には入っていたのですが、実際に優勝が決まったのはもっと後のことでした。優勝という報告を受けたときはもちろん嬉しかったのですが、すでにこの一年できなかったことの振り返りをして、次のシーズンに向かって走り始めていました。ただ応援してくださった方に、ちゃんと優勝ということを報告できたのは嬉しかったです。

——そして新たなシーズンが始まりました。

倉持：女子サッカーに比べると、女子フットサルの認知は追いついていないと思いますけど、たくさんの方の目に触れて、面白いスポーツだなって思ってもらえるように頑張っていきたいと思います。今シーズンも優勝を目指していきます！

——今シーズンのチームの魅力を教えてください。

清水：私たちは「走る・闘う」というスローガンがあるので、どこのチームよりも走って、ゴールを決める試合をお見せしたいと思っています。また今年はメンバーが変わって、若いチームになりました。若さを活かして、SNSの発信を中心に活動を広げていければなと思っています。ぜひ注目してください。

倉持：今シーズン、元ジェフレディースで活躍した選手も加入しています。チームとしてスピードと熱量を持ってプレーします。試合と同様の激しい練習を毎回重ねています。リーグで一番になることはどのチームも目指していると思いますが、世界で通用する選手になれるようにという想いで、みんなが日々の練習を行っています。サッカーしか見たことがない方は、例えばボールが出たときに4秒以内に始めなければいけないとか、交代を何人もしていいというルールを知らないと思いますが、むしろサッカーが好きな人にも見てほしいです。スピード感のあるゲームを楽しんでもらえると思います。



世界を見据え、質の高い練習を日々重ねている。

©Bardral Urayasu

——個人的には攻守の切り替えが早くてスピーディーな共通点があるので、バスケットファンも楽しめるのではないかと考えています。

倉持：かつてバスケの選手をやっていた選手が日本代表を背負っていた時期もあって、バスケファンが共感できる部分も多いスポーツだと思います。日本はサッカーとフットサルと分けることが多いのですが、海外ではフットボールとしてひとまとめです。フットサルという狭いコートでやって、サッカーという広いところに出ていく選手もいます。私自身がサッカーとフットサルの両方をやっていて、お互いに活かせる部分も多いと感じています。サッカーファンがフットサルを見たり、フットサルファンがサッカーを見たりすれば、お互いの認知も広がっていきます。そういうことも考えて、チーム活動をしていきたいと思っています。

——今後の目標や夢を教えてくださいませんか？

清水：個人的な目標としては、リーグ開幕に向けて自分自身のレベルアップをはかり、WEリーグ開幕戦の出場を目指していきます。チームとしてはもちろん、WEリーグ初代チャンピオンです。その一つの目標に向かって全員で頑張っています。プロサッカー選手という職業を活かして、子どもたちにサッカーを伝えていければいいなと思っています。

倉持：私は2つあります。一つは女子フットサルの強豪であるスペインを倒すこと。そのためには日本代表になってそこで評価してもらい、国の代表として戦えるようにならないといけないので、そこを達成すること。もう一つは、見に来てくださる方を楽しませられるようなプレイヤーになりたいということです。コロナ禍で、会場に見に来ていただくことが当たり前ではないと、改めて強く感じた一年だったからです。

清水：本当にそうですね。応援があるのとないのとでは、パフォーマンスも違うと思います。もちろんどんな状況でも一生懸命プレーするのですが、サポーターのみなさんの応援があったほうがいいプレーもできるし、サポーターさんやスポンサーさんも含めてのチーム一丸ということ強く感じています。どのスポーツのどの選手に聞いても、応援がないと物足りないと言うと思います。

——最後に、ファンの方へのメッセージをお願いします。

清水：やっとなみなさんにサッカーをお見せすることができます。去年以上にジェフレディースらしさを体現していきます。WEリーグ開幕に向けて、サポーターやスポンサーのみなさんとチーム一丸になり、一緒に戦っていけるようなチーム作りをしていきたいと思っていますので、応援よろしくお願いします！

倉持：コロナ禍で、リーグ開催に向けて力を尽くしてくださっている方のおかげで試合ができることに感謝をしてプレーします。私たちのチームはもちろん、リーグに参加するチーム全体でフットサルの価値や魅力を伝えていけるように、頑張っていきますので、今シーズンも応援よろしくお願いします！



清水 葵（しみず しおり）
（ジェフユナイテッド市原・千葉レ
ディース）

背番号／1

ポジション／ゴールキーパー

生年月日／1996年10月17日

出身地／東京都

身長／170cm

体重／62kg

血液型／B型

前所属／オルカ鴨川FC

ジェフ千葉レディース公式TikTok

<https://www.tiktok.com/@jefchibaladies>

ジェフレディース公式Instagram

https://www.instagram.com/jef_chiba_ladies_official/



倉持 杏子（くらもち きょうこ）
（バルドラール浦安ラス・ボニータス）

背番号／23

ポジション／フィールドプレイヤー

生年月日／1995年12月12日

出身地／東京都

身長／157.5cm

体重／54kg

血液型／O型

前所属／スフィーダ世田谷FC

選手とファンをつなぐ「エンゲート」

<https://engage.jp/communities/bardralurayasulasbonitas/>

公式ファンクラブ「マリネロ」

<https://bardral-marinero.net/>



取材・文／元盛恵（まいぷれ）